

令和7年度第2回 旧富良野高校跡地利活用市民検討委員会

日時：令和8年3月12日（木）14:30～16:00

場所：複合庁舎1階 文化会館会議室B

出席：(委員)

濱本 渉、遠藤和章、篠嶋慎一、大橋修一、吉中文也、寺島 聡、出合亜希、中村吉明
軽米達也、及川貴寛、中村秀人、谷山千代、生駒 大 合計13名

(事務局) 関澤総務部長、上坂財政課長、墓田財政課主幹

1. 開会

軽米委員長

皆さん、あらためましてこんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今日は第2回目の検討委員会ということで、皆さんには2日に分けて校舎を見ていただいたのちの委員会ということになります。前回の委員会の意見、また校舎を見て皆さん色々感じたこともあると思います。私も校舎の中に入れていただいて、思っていたより大規模な建物だなということをあらためて感じました。そういう点も踏まえまして、本日も皆さんからの貴重なご意見をお預かりしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

軽米委員長

事務局から報告事項をお願いします。

2. 報告事項

墓田

記載の日程で2回校舎の見学をしていただいています。各日6名の参加をいただきました。当日の皆さんの感想として、やはり校舎が大規模すぎるという声をいただきました。

続きまして、第1回市民検討委員会の振り返りの部分です。いくつか頂いた宿題のうち、まず道教委への確認事項です。1点目、収益性の判断基準ですが、民間事業者が使用する場合は収益性ありと判断され、有償譲渡か公売ということになります。ただし、施設利用料は条例で定めて徴収する、自治体の収入であるため利益にはならないとの回答でした。2点目、民間への貸付方法、一部または全部の違いにより譲渡額に差は出ないのかという点については、額に差は生じず、10年間使用しなければならないという縛りも変わりありませんでした。3点目、プールの関しては築24年で、修繕歴はありませんでした。また、利用状況については、閉校間際の令和6年秋までは使用していたとのことでした。

法的な課題は、建築基準法と消防法について確認しました。まず、建築基準法では建物の用途変更に伴う確認申請が必要ということと、工場などを設置する場合は作業場が50㎡以下という条件があります。消防法では、消火・警報・避難設備の整備と防火管理者の選任という問題がありました。

中村吉明委員のご提案・廃校舎の活用事例は、事前配布の通りです。お配りした道内の活用事例は全て、小中学校の校舎の利活用で、白老町と伊達市以外は社会教育系の施設として転用されています。全国的に高校の校舎をそのまま転用している例は少ない状況でした。道内での高校校

舎の活用は市町村立学校への転用が最も多いとのことでした。

続きまして、第1回の議論の内容です。事務局が提示したたたき台は、施設で直接収益をあげるのではなく、中心市街地への人の動きをつくるようなにぎわいのある場所として提案をしています。みなさんから出された意見としては、「利益を上げる利活用」「たたき台にアイデアをプラス」「体育館を子どもの遊び場に転用は良い」「入浴施設・スパ」「市内の他の空き校舎を含めて利活用を検討すべき」「プールの活用」「人が回遊し、中心市街地の利益に繋げる」「学校をテーマにしたスペースがあると良い」「3・4階の利用は利用者の負担が大きい」「校舎が大規模なので、最初からすべてを使い切るのではなく、段階的な活用を検討」などのご意見が出されています。これらを踏まえながら、施設整備のコンセプトなどをご検討いただければと思います。

3. 協議事項

軽米委員長

第1回を振り返っての報告がありました。事務局からの報告に対してご質問等ありますか？無いようでしたら、3番を終了します。続いて4番協議事項ということで、ご意見を頂きたいと思いますが、順にお一人ずつ校舎を見学したことを踏まえて、ご意見ををお願いします。濱本委員から順にお願いします。

濱本委員

見学してみて、委員長がおっしゃったとおり、頭でイメージしていた以上にかなり広い建物だと感じました。また、思っていたよりも傷みが進んでいるという印象も受けました。譲渡方法の検討という点では、やはり無償譲渡を前提に考えていく必要があると思いますし、使用する場所をある程度限定しなければ、建物全体を使い切るのは難しいのではないかとイメージを持ちました。

遠藤委員

見学して、濱本委員がおっしゃったように建物が広いこと、そしてかなり傷んでいることを感じました。特に雨漏り箇所が2か所あった点を考えると、市の財政状況にもよりますが、改修や整備には相当な費用がかかるのではないかと思います。また、先ほど説明のあった消防法対応の警報設備や消火設備なども含めると、かなりの金額になるのではないのでしょうか。その費用をかけてまで実施すべきなのか、さらにその後の維持費も相当かかると思われます。

市の財政を圧迫しない形で進めることが重要であり、他市のように財政破綻に至って市民に迷惑がかかることのないよう、その点は十分に検討すべきだと感じました。

篠嶋委員

見学した感想は、お二人と同じで、非常に広いということです。例えば一つの団体や一つの目的で使うには規模が大きすぎる建物だと思いますので、活用するのであればエリアを分けて共同で運営していくような形にしないと厳しいのではないかと感じました。

私は第1回に遅刻してしまい、議事録でしか内容を把握できていないのですが、基本的には「この建物を使って何を目標にするのか」という点が最も重要だと思います。

個人的に富良野市の現状の課題として感じているのは、人口減少と、観光客は多いものの夏の観光客がかなり減少してきている点です。宿泊施設は増えていますが、観光客が減少すれば街の活気

が失われてしまいます。

住民の満足度を高めて近隣からの移住を促す施設にするのか、観光に特化して観光客を呼び込む施設にするのか、あるいは市民が関わりながら観光客と交流できる施設にするのか、その方向性を考えながら、自分なりに活用方法を検討しています。

今日示された利用事例のほか、札幌の豊水会館（旧豊水小学校の利活用施設）を見学する予定ですが、事例を見てもかなり費用がかかることから、本当にそこまでお金をかける意味があるのかという点も含めて考えています。

大橋委員

見学してまず感じたのは、とにかく建物が大きいということと、短期間の空き期間にもかかわらず、ここまで傷むものなのかと正直驚いた点です。

新たに使うとなると、各教室に鍵を設置する必要があるのではないかというイメージも持ちました。無償譲渡を受けた場合の活用についてですが、私は現在、子どもに関わる活動をしていることもあり、富良野では人口減少と同時に子どもの数も減っており、今後も学校の閉校が増えていくのではないかと感じています。そうであれば、例えば西中と東中を統合した学校をつくるなど、学校としての新たな活用も考えられるのではないかと思います。また、麓郷でも閉校がある中で、子どもたちが通いやすい学校のあり方も検討できるのではないかと考えています。

使って人が出入りするすることで、建物の傷みもある程度防げるのではないかと感じました。

吉中委員

見学して、皆さんがおっしゃるように建物の規模が大きく、活用は非常に難しいだろうと感じましたし、全体を使い切るのは現実的に厳しいと思いました。

個人的には、せつかくの学校施設なので、できるだけ学校としての意味を持たせたいという思いがあります。人口や子どもの数が減少する中で、まちの運営は厳しくなりますが、富良野の基幹産業である農業や観光の立場から考えると、ここを活かして関係人口を増やしていきたいと思います。そのためにも、人材育成の場として、例えばガイドやインストラクターの養成、外国語習得など、日本人が不得意とする語学分野を強化する場として活用できればよいと考えました。

また、建物だけでなくグラウンドも非常にもったいないと感じました。高校が統合されて部活動の場所が不足していると聞いていますので、うまく活用できればよいと思います。

寺島委員

建物が大きいという点は、皆さんと同意見です。さまざまな人の要望を聞く中で、子ども向けに使える施設が富良野には少ないという声や、街中に駐車場が不足しているという声がありました。これは市外の方の意見かもしれませんが、大型トラックが駐車でき、用事を済ませられる場所がないという指摘もあります。グラウンドなどを活用して人を呼び込むという点では、可能性があると感じました。ただし、かけられるお金の範囲によって方向性は大きく変わると思います。

施設を集約するだけであれば、どの程度の費用が必要なのか、またセキュリティ面も課題です。建物が広く平坦な構造のため、防犯上の難しさがああり、トイレも端に配置されているなど、有効活用には工夫が必要だと感じました。

市内施設を集約する施設にするのか、あるいはお金をかけて人を呼び込む施設にするのか、まず方向性を定めなければ前に進まないと思いました。

出合委員

見学には参加できませんでしたが、皆さんのお話を伺い、非常に広く、思っていたよりも老朽化しているという点を踏まえると、無償譲渡を受けたとしても、その後の維持費を考えると難しさがあると感じました。そのため、どの方向性で進めるのかという議論と並行して、市としてどの程度の予算を想定しているのかを示してもらわなければ、方向性も決められないのではないかと思います。

また、市長の冒頭挨拶で、女学校や高校として長年「学びの場」であったというお話がありましたので、「学び」という点をコンセプトの中心に据え、そこから派生させていく活用がよいのではないかと感じました。

中村吉明委員

規模が大きすぎて、現実的に全てを使い切るのは難しいと感じました。また、ボイラーが3か所に分かれて設置されており、全て稼働させるのが良いのか、使わないと劣化してしまうのか、悩ましいところです。

確か維持費に、年間3,000万から4,000万円ほどかかるという話もありましたが、動かしてもお金がかかり、動かさなくても劣化するという状況です。無償譲渡だけでなく、売却という選択肢もあります。誰が購入するのかという不安もあります。いずれにしてもお金がかかり、無償で受けたとしても何かに使うには多額の費用が必要です。10年後に別の用途にしようとした際に使えない状態になっていれば、解体という選択も出てきます。

一番良いのは学校として使うことだと思いますが、それが難しいのであれば、少なくとも稼働させなければ傷みは進みます。この1年であれだけ劣化していることを考えると、廃墟のようになってしまう恐れもあります。

校舎見学後、何に使うべきか考えていますが、正直まだ見当がついていません。ただ、方向性は見出さなければならぬので、引き続き知恵を絞っていきたいと思います。

中村秀人委員

建物は非常に大きく、学校特有の構造として、長い廊下と細かい間仕切りが印象的でした。商業施設や工場などに用途転換するとなると、相当な費用がかかると思います。

学校特有の構造を活かせればよいのですが、それが可能かどうかは課題です。いずれにしても費用は避けられませんので、これまでの議論にもあったように、「学び舎は学び舎として使う」という方向が比較的現実的ではないかと感じています。

人を呼び込み、地域産業に人材をつなげる拠点として活用できれば理想ですが、子どもの数が減少する中で、北海道の中央に位置するという立地を活かしたPRなど、課題も多いと感じました。

谷山委員

私も広すぎると感じましたが、まだ十分に使える部分もあると思いました。そうした場所を活用して、子どもたちが誇りに思える、「富良野にはこういう場所があるからいい街だね」と思える環境があればよいと感じました。

教室を貸教室として、演劇やバンド活動、地域の部活動の拠点として使うことや、ボランティア団体の活動場所、和室を活かした日本の伝統文化を伝える場なども考えられると思います。

子どもが利用するとなると防犯面が気になりますので、常に管理者がいて見守ってくれる体制が

必要だと感じました。理想としては、オープンなカフェスペースがあり、そこで大人たちが見守る中、子どもたちが自由に過ごし、「今日あそこに行こう」と誘い合って集まれる場所になればうれしいとイメージしていました。

生駒委員

最初のアンケート結果を見ると、上位に「運動する場所」「子どもが遊ぶ場所」「憩いの場所」「芸術展示の場所」が挙げられていました。広さを活かして段階的に実現していくことで、短期的な移住者増加は難しくても、住民の生活の質、いわゆる QOL を高めることで、結果的に移住につながるのではないかと感じました。

維持費や財政負担を考えると、全てを使うのは厳しいという印象を見学時に持ちました。また、エアコンがパソコン室にしかないと聞き、改修の必要性や、エアコン設置の可否が利用範囲を制限する可能性もあると感じました。

そうした条件を踏まえながら、できることを模索していく中で、コンセプトが見えてくるのではないかと思います。

及川委員

私の印象も、やはり建物が広いということと、老朽化している箇所がかなりあるという点でした。皆さんがおっしゃっているように、使えるところは活用した方が良いとは思いますが、老朽化している部分を改修してまで使う意味があるのかというのが正直な感想です。無償譲渡という方向で進めるとしても、中途半端に費用をかけて改修し、運営していくことが本当に良いのかという疑問もあります。

私は子育て世代ですが、子どもたちがこのまちに誇りを持って生きていけるかを考えると、さまざまな人が集まれる場所は大切だと思います。富良野は農業と観光のイメージが強い一方で、それ以外のインパクトがまだ弱いと感じています。そこで、新たに「合宿のまち」として、年間を通して人が集まる場所になり、広い土地を活用した活動ができれば、新しい富良野市の顔が見えてくるのではないかと思います。中途半端に取り組むくらいなら、やらない方が良いのではないかと思います。

軽米委員長

皆さん、ありがとうございます。見学を踏まえ、それぞれの立場から多くの意見を出していただきました。

整理すると、現在住んでいる市民のため、特に子どもを中心とした人材育成や学びの場として活用した方が良いという意見がある一方で、合宿などを含め、市外から人を呼び込む施設として活用する、産業発展と結びつけて外部から人が来るような使い方も考えられるという意見がありました。また、将来的に人口減少が進む中で、今後の利活用のために、表現は適切ではないかもしれませんが「取っておく」という考え方もあったように思います。さらに、現在ボランティアなどで活動している方々の拠点が不足していることから、貸出し施設としての活用という意見もありました。

譲渡を受けるかどうかという点については、譲渡後に費用はかかるものの、「不要だから北海道で処分してほしい」という意見はなかったと感じています。この委員会としては、多くの方が無償譲渡を前提に発言されていたと思います。

今後は、人材育成、人を呼び込む、市民のため、住民の QOL 向上、ボランティア活動の拠点といったキーワードを整理し、どのような方向で活用するのかを検討していきたいと思います。そのう

えで、パブリックコメントなどを通じて市民の意見をいただき、市政としてまとめてもらうための方向性を、この市民検討委員会として示していく、という流れでよろしいかと思います。この場所が「いない」という市民はいないのではないのでしょうか。財政的な負担をできるだけ抑えつつ、市民のため、将来のため、子どもたちのために良い活用方法を考えていく、そうした方向で委員会を進めたいと思います。

それでは、譲渡方法については、無償譲渡という方向でよろしいですね。

中村吉明委員

譲渡を受けずに公売を望む市民はいないと思います。委員長がおっしゃったように、何とか活用したいという意見が大半ではないのでしょうか。アンケート結果を見ても、その傾向は明らかだと思います。売却という選択肢は考えなくてよく、無償譲渡が一番良いと思います。その上で、使い切れない部分をどう維持していくかが課題になると思います。

篠嶋委員

雨漏りについてですが、庇のドレンが詰まって、すがもりしたものだと思われます。現在、管理はされていないのでしょうか。

軽米委員長

現在は北海道の所有ですので、市として対応するのは難しい状況だと思います。

墓田

あの状態で放置しておくのも心配ですので、雪解けのタイミングで、市として対応してよいかどうか、北海道に確認したいと思っています。

中村吉明委員

すぐに使えそうだと感じたのは体育館です。子どもたちの遊び場にするのか、スポーツ大会が開催できる場所にするのか、まずは体育館の活用を最初に考えるべきだと思います。グラウンドについても、現状のまま駐車場にするのか、キャンプ場にするのかなど、さまざまな活用が考えられます。プールを使うかどうかにも検討が必要です。

2階建て校舎と中庭・体育館は一体的に使えるイメージが湧きますし、その他の教室は貸室として活用しても良いのではないかと思います。ダンスや日本語教室、調理室の活用、格技場での小規模イベントなども考えられます。貸室として使うのは良いと思いますが、メインとなる活用を決めた上で、残りの教室を倉庫として使うなど、貸室にしない選択もあり得ると思います。

ボイラーが3か所に分かれている点も気になります。ボイラーを使わず、利用する部屋のみをポータブルストーブで暖めた方が、費用面では現実的かもしれません。

軽米委員長

そうした管理面の細かな課題については、譲渡後に行政で判断していただくのが良いと思います。この委員会でそこまで踏み込むのは難しいでしょう。

この委員会では、皆さんから出されたキーワードをもとに、「こういう想いで旧富良野高校跡地を活用してほしい」という市民委員会としての答申をまとめていくことが役割だと考えています。改めて、盛り込んだ方がよいと思う点があれば、ぜひ意見を出していただきたいと思います。

生駒委員

一つのゴールがあると、分かりやすく伝わるのではないかと思います。例えば、市民が運動をしたり、子どもを遊ばせたり、憩いの場としてカフェスペースもあり、みんなが楽しめる場所というイメージは市民にとって分かりやすいと思います。一方で、合宿として外から人が来て、充実した環境で活動できるという姿も考えられます。

誰かが幸せになるという点をキーワードに、「幸せの形」を軸に整理していくと良いのではないかと思います。細かいところまでは整理しきれていません。

軽米委員長

「みんなが楽しめる」「憩いの場」「幸せを感じられる」といった、少し抽象的ではありますが、方向性としては良いイメージだと思います。

谷山委員

今の時代、人と人とのつながりを感じられる場が必要だと思います。それがコンセプトになれば素敵だと感じました。

例えば、おじいちゃんやおばあちゃんがお茶を飲んでいるところに子どもたちが来て遊び、世代を超えて支え合える空間があり、さらに合宿などで外からも人が来るような、「富良野の真ん中」と感じられる場所ができれば良いと思います。

軽米委員長

市民同士、また市民と市外の人が世代を超えてつながれる場、ということですね。ありがとうございます。

中村秀人委員

フリースペースとしての需要がどの程度あるのか気になりました。ダンスや太鼓など、地域にはさまざまなサークル活動がありますが、それに適した場所がないと感じている人も多いのではないのでしょうか。

具体的に決まらなくても、そうした需要のあるスペースを有効活用するという視点は持つても良いと思います。谷山委員がおっしゃった「つながり」や「交流」「集える場」という要素を備えた施設になれば良いと思います。例えば、英会話教室を始めたい人のスタートアップの場として活用するなど、さまざまな使い方が考えられるのではないかと感じました。

中村吉明委員

人が集まれる形が理想だと思います。合宿施設も良い案ですし、基本が学校なので、学習スペースとして使うのが最も適していると思います。教室はそのまま使える部分が多いので、利用できる

ところは活用する。合宿も一案です。南富良野のスキー場は大学生の合宿に使われていますが、富良野は費用が高いという話もあります。夏はテントを張ってキャンプ、冬は室内利用もでき、調理施設もあります。一部を合宿施設的に使うことも可能だと思います。

皆さんがイメージしている活用方法は、工夫すれば全て盛り込めるのではないのでしょうか。体育館は子どもの遊び場かスポーツ施設か、どちらかを決める必要がありますが、他の教室は柔軟に使えらると思います。

子どもの遊び場のニーズは高いので、それを入れつつ、図書館機能なども含め、埋められるところから段階的に進めるのが良いと思います。使わない場所は合宿用に回す、という形が理想です。個人的には入浴施設があると良いとも思っています。

出合委員

先ほどもお話ししましたが、「学び」をコンセプトにするのが良いと考えています。学びの中には合宿も含まれると思いますし、日本語学校や地域産業に関する学びの場も考えられます。子どもたちにとっては、遊ぶことも学びの一つですので、そうした要素も含めながら、「学び」という言葉は富良野高校跡地のコンセプトとして残してほしいと思います。

全体像としては、谷山委員がおっしゃる「つながり」という視点を大切にしてほしいです。一つのテーマに絞りすぎると、人と人とのつながりが薄れてしまう恐れがあります。

また、街中に学童保育の場所が無い現状を考えると、この跡地があれば、扇山小学校や富良野小学校からも通いやすいのではないかと思います。

寺島委員

以前から出ている「施設の集約」という考え方についてですが、図書館やふれあいセンター、女性センターなど、老朽化している施設も多くあります。それらを集約する場所としては、富良野高校の方が比較的新しいのではないかと思います。

また、子ども関係の施設や、みんなが集まれる施設になってほしいという思いもあります。学校特有の長い廊下や区切られた教室は圧迫感があり、防犯面でも課題があります。壁を取り払い、オープンな空間にすることで、太鼓の練習や子どもたちの様子が自然と見え、全体で見守れる施設になれば良いと思います。広いスペースにすることで、用途に応じた柔軟な使い方も可能になると考えています。

軽米委員長

コンパクト化や施設の集約は、これからの時代に必要な視点だと思います。

吉中委員

委員長がおっしゃったように、譲渡を受けないという選択肢はないという前提で良いと思います。点在している施設をまとめるという考え方は現実的だと思います。

拠点を一つに集約すれば、管理コストの削減や多目的利用が可能になります。校舎の規模としては十分大きく、カルチャーセンター的な活用も考えられます。

使わないスペースが増えると老朽化が進み、使っていなくても修繕が必要になるため、できるだけ機能を集約して使う方向が良いと感じました。また、グラウンドや体育館についても、スポーツセンターだけでは活動しきれないクラブの受け皿になる可能性があると思います。

大橋委員

皆さんの意見に概ね同意します。以前、学校を一つにまとめたら良いのではないかと話しましたが、現在0歳児が70人程度しかおらず、この子どもたちが成長した時には、教室数もかなり少なくて済む状況になります。

将来的に中学校を一つにするのであれば、今のうちに統合し、空いた学校を温泉施設や合宿所、市民が集える場所として活用する方が、自由な交流が生まれるのではないかと思います。跡地を学校として使えば、スペースは使い切れると思いますし、余った場所は倉庫として使えば良いと、個人的には考えています。

篠嶋委員

最初に見学した際、茶道室や書道室、調理室など、さまざまな教室が揃っていると感じました。観光に来る方に文化体験を提供する立場として、「ここに来ればいろいろな体験ができる」という観光拠点にするのは良い案だと思いました。費用面を一旦考えなければ、使える教室を有効活用できると思います。体育館についても、大会利用のほか、ボルダリングやスケートボードなど、富良野でさまざまな体験ができるエリアにするのも面白いと思います。また、農業が基幹産業である中で、出荷できない農産物を加工し、海外の方に販売することで、加工・販売を含めた雇用創出につながる可能性もあると感じました。

インストラクター養成の話がありましたが、アウトドア会社が点在している現状を踏まえ、拠点を集約し、アクティビティと人材育成を結びつけることで、資格取得や定住につなげる仕組みも考えられると、最初は思いました。

ただし、無償譲渡の場合はテナントとしての貸付が難しく、貸館利用が中心になると思われます。その点を踏まえると、使いやすいスペースを整え、時間貸しで利用できる施設として、できるだけ費用をかけずに整備していくのが現実的ではないかと考えています。

軽米委員長

「体験」という視点は、これまであまり出ていなかったと思いますので、そのような視点を持つことも必要ではないかと感じました。

遠藤委員

利活用のコンセプトについては、市の検討委員会の中で「学び」「集い」「つながり」をキーワードとしてはどうか、という整理がなされています。これまでの皆さんの発言を聞いていても、この三つのキーワードには全て当てはまっていると感じます。

今後、どう具体化していくかという点では、例えば図書館を複合施設に組み込んだ場合、現在の図書館跡地をどう活用するのかという問題が出てきます。前回は申し上げましたが、中学校を一つにして旧富良野高校跡地に移した場合、その跡地をどうするのか、麓郷の学校をどうするのかという議論にもつながります。

また、末広と朝日町のコミュニティセンターが4月から休館となりますが、その跡地をどう活用するのかという問題も出てきます。集約すること自体は良いのですが、その分、跡地の問題が必ず生じるという点は考えておく必要があると思います。

一方で、否定から入ってしまうと前に進まないの補足として申し上げますが、合宿所を整備し

た場合、何を目的とした合宿なのかが重要になります。例えばスキーであれば可能性はあると思いますが、ラグビーや陸上、サッカーなどの場合には、受け皿となる施設整備が必要になります。また、整備したとしても「合宿が優先で市民は使えない」という施設になってしまうと問題です。

体育館についても、現在のスポーツセンターは合宿を受け入れる仕様ではありませんし、陸上についても全天候型ではないため、雨天時の利用に課題があります。これらを整備するとなると、何億円もの費用がかかります。

そうした点を踏まえると、子どもからスポーツ団体、さらには今後の部活動の活動場所も含めて、トータルで活用できる施設が望ましいのではないかと考えています。

濱本委員

コンセプトやキーワードという話とは少し違いますが、前回の会議で、市民アイデアアンケートについて、10代の回答率が高いという話をしました。改めて確認すると、10代の回答が全体の28%を占めており、「こう使ってほしい」「こうしてほしい」という声が数多く寄せられています。その中から一つでも実現できると良いと思っています。旧富良野高校に最も近い世代の人たちが真剣に考えて出したアイデアが、反映されるか、全く反映されないかでは、これから富良野市を担っていく重要な世代へのインパクトが大きく違うと思いますので、その点はぜひお願いしたいと思います。

もう一つは、遠藤委員からも指摘がありましたが、コミュニティセンターの運営が難しくなっている点です。私自身、栄町に住んでいますが、栄町のコミュニティセンターでも、連合町内会の中で「そろそろ厳しいのではないかと」という話が出ています。理由は、毎年十数万円の赤字が出ているためです。

コミュニティセンターは、もともと地域から市に要望して建設されたものだと思いますが、人口減少や年齢構成の変化、葬儀利用の減少などにより、利用頻度や利用目的が変わり、現在は会合で使う程度になっています。その結果、赤字になってしまうケースが今後さらに増えていくと思います。

そうした中で、旧富良野高校の部屋貸しについて考えると、場所は少し遠くなりますが、用途によっては受け皿になり得るのではないかと思います。

また、中村秀人委員からフリースペースのニーズについて話がありましたが、現在、5条通りの再開発に伴い、英語教室やパソコン教室、ダンス教室を行っていた団体が活動場所を失い、「近いから」という理由で栄町のコミュニティセンターを借りたいという話がありました。実際、来月から貸し出す予定です。

連合町内会としては、毎年赤字で維持が難しいと言っていたところに出てきた話で、大変喜ばれています。再開発が終わったら元に戻るのかと聞いたところ、貸館を行うような施設はないとのことで、戻る場所はないという話でした。こうした事例が実際に市内で起きていることを考えると、旧富良野高校をコンパクトにしながら、貸室などとして活用していくのも一つの方法ではないかと感じました。

軽米委員長

確かに、コミュニティセンターは当初の目的から徐々に用途が変わり、あまり使われなくなっているという現実があります。一方で、今活動している団体があるにもかかわらず、活動する場所がないという状況もあるということです。

そうした点を考えると、この施設がうまく利活用されること自体が、一つのコンセプト、あるいは方向性になり得るのではないかと感じました。

及川委員

私は、大橋委員がおっしゃっていたように、学校を統合するという考え方はあり得ると思えました。

また、私は富良野高校運営協議会にも関わっていますが、富良野高校は意外に全道から注目されており、特に演劇部に興味を持つ方からの問い合わせが多い状況です。しかし、下宿がないことや家賃が高いことから、通わせたくても難しいという声があります。今後さらに人を呼び込むとなると、対応が必要になると思えます。

例えば、中学校を一つに集約し、空いた学校の一方を下宿や合宿誘致のための施設として改修し、もう一方を人が集う施設として活用するなど、旧富良野高校という大きな建物一つで全てを賄うよりも、複数の施設を役割分担して活用した方が現実的ではないかと感じました。

また、合宿誘致についても、スポーツをしていた立場からすると、「何を目的に行くのか」が非常に重要です。スキーであっても、競技環境だけでなく、宿泊施設やトレーニング施設など、トータルでの環境整備が必要になります。これには多額の費用がかかるため、費用面を度外視できるのであれば人を呼ぶきっかけにはなると思いますが、現実的には難しい部分もあると思えます。

人を呼び込みたいという思いはありますが、旧富良野高校の活用としては、中学校の統合が比較的現実的ではないかと考えています。

軽米委員長

全体を通して、他に言い忘れたことがある方はいらっしゃいますか。

谷山委員

合宿について補足ですが、お母さん方から聞いた話として、吹奏楽部も合宿を行うことが多く、本州から避暑目的で来るケースもあるそうです。ただ、富良野は費用が高いため、他の町を選んでいるという話も聞いています。もしそうした受け皿があれば、一定の需要はあるのではないかと思います。

遠藤委員

旧富良野高校敷地内にある合宿棟は、何人程度宿泊できるのでしょうか。

墓田

20人から30人程度だったと思います。

上坂

30年ほど前に泊まりましたが、20人は宿泊可能でした。

遠藤委員

それであれば、コミュニティセンターの方が適しているかもしれませんね。

谷山委員

コミュニティセンターも、そうした使い方ができると良いですね。

軽米委員長

合宿所の近くに球場や河川敷の球場があり、以前話をした際に「あそこは大会誘致に最適だ」と言われたことがあります。確かに、その通りかもしれないと感じました。

遠藤委員

旧富良野高校の野球場は硬球対応ですよ。若葉球場は硬球が使えず、グラウンドも狭い状況です。現在の富良野高校も、サッカー部、ラグビー部、野球部があり、グラウンドが手狭だと聞いています。そういう意味では、野球を中心とした活用は可能性があると思います。若葉球場と旧グラウンドを併用すれば、少年野球にも対応でき、さまざまな活用が考えられると思います。

軽米委員長

本日は、コンセプトや基本方針のキーワードとなる多くのご意見をいただき、ありがとうございました。次回に向けて、本日の意見を集約した形で議論を前に進めていければと思います。次回会議の前に、資料としてお渡しできるよう、事務局で準備をお願いします。それでは、第2回市民検討委員会を、これをもって終了いたします。誠にありがとうございました。